

学校スローガン

「自分で決めてトライ！みんなでもっとチャレンジ！」



緑小だより

令和7年3月3日(月)発行 NO.38



留萌市立緑丘小学校

心の鬼を退治して ～節分にちなんで～

校長 西條直志

今年も1月から2月にかけて、沼田町と増毛町において、2回のスキー学習を無事に終えることができました。保護者の方にお手伝いを募ったところ、今年度は3名の方が参加してくださいました。お忙しいところ、本当にありがとうございました。お陰様で、子どもたちは怪我や事故もなく、楽しく安全に、一人一人に合ったスキーの技能を上達させることができました。また、保護者の皆様には、スキー道具やお弁当の準備、スキーの運搬等、ご協力ありがとうございました。雪国ならではの冬の楽しみ方を知るとともに、全身運動として体力の向上にもつながり、スキー学習のねらいを十分に達成できたものと考えています。また、2月3日(月)には、次年度入学予定の16名のかわいらしい新1年生を迎えて「1日入学」を行いました。お世話係として5年生が、一緒にじゃんけん列車やしっぽ取りゲームをし、交流を深めました。4月には全校児童で温かく迎え入れたいと思います。現在は、各学年まとめの学習に一生懸命取り組んでいるところです。今年学んだことは確実に習得して、次年度の新学期を迎えてほしいと思っています。

今年の節分は、暦のずれの関係で2月2日(日)でした。そこで、6日(木)の全校朝会では、節分にちなんだお話をしました。節分は本来は年に4回あったこと、季節の変わり目を表し、鬼が出るので豆まきで追い払うこと、仏教では、修行の邪魔をする5つの煩惱を5つの鬼に例えたことなどを話し、左の節分クイズをしました。子どもたちはアニメやゲームで知っていたのか、正解の③黒鬼と答えた子が多かったです。その後、赤鬼は「欲深く何でも欲しがる**欲しがり鬼**」、青鬼は「悪口や嫌なことばかり言って、いつも怒っている**怒りんぼ鬼**」、黄鬼は「自分勝手にわがままな**わがまま鬼**」、緑鬼は「やる気が出なくてだらだらする**なまけ鬼**」、黒鬼は「人を疑ったり愚痴をこぼしたりする**人のせい鬼**」と紹介し、みんなの心の中にはいませんか？と投げかけました。その後、心の鬼は豆を投げなくても、強い気持ちをもてば退治できること、そして、残り少ない3学期を、**落ち着いた気持ちでクラスの仲間と最後まで楽しく過ごす**と話しました。進級や卒業を間近に控えると、子どもたちも少しそわそわし始めて、落ち着かなくなることから、トラブルが多く起きる時期でもあります。緑っ子たち全員が、気持ちよく令和6年度を締めくくれるよう、また教職員一同、毎日の教育活動に務めてまいります。

2月も終わりを迎え、少しずつ暖かい日が増えてきました。28日(金)は「6年生を送る会」が行われ、全校児童がこれまで学校

をリードしてくれた6年生への感謝の気持ちを表しました。後日 YouTube での配信も予定しておりますので、どうぞお子様と一緒にご覧いただければと思います。いよいよ3月に突入し、今年度もゴールに向けて秒読み体制です。15日(土)は、本校の第67回目の卒業式です。21名の6年生の新たな門出にふさわしい最高の式となるよう、全校児童・教職員でしっかりと準備を進めてまいります。残り少ない日数となりましたが、最後までご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

◇6年生を送る会◇

2月28日(金)に「6送会」を実施しました。多くの保護者や全校児童、教職員に見守られ、6年生の似顔絵、や「ありがとうメッセージ」が飾られた会場で、思い出に残る温かい時間を過ごすことができました(後半にはサプライズも?!)。



■6年生から楽しいクイズとお礼の言葉



■1年生と手をつないで入退場



■全校のみんなで〇×クイズ



■6年生から在校生へのプレゼント

～学校運営協議会(CS)の活動から～

2月27日(木)に、今年度3回目の協議会を実施しました。1年間の教育活動に対する評価と改善策について確認するとともに、次年度の学校経営方針についての承認をいただきました。学校・保護者・地域が一体となって子どもたちを育てる「チーム緑小」として、今後もしっかりと連携を図りたいと考えています。



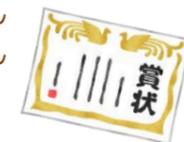
～PTAの活動から～

☆「PTA表彰」実施

今年度をもってご退任される2名の役員さんに対し、2月の役員会の席上にて「PTA表彰」を行いました。

- PTA 監査 さん
- PTA 広報部長 さん

長きにわたりお力添えをいただき、ありがとうございました。



3月 行事予定

- 6日(木) 全校朝会
- 12日(水) 卒業式総練習
- 15日(土) 第67回卒業式
- 17日(月) 振替休業日
- 20日(木) 春分の日
- 24日(月) 修了式・離任式
- 25日(火)～4月7日(月) 学年末・学年始休業

4月8日(火) 着任式・始業式・入学式
※午前日課(給食なし)

せつぶんクイズ!
5つの鬼の色は、「赤鬼」「青鬼」「黄鬼」「緑鬼」と、もう一つは何色の鬼でしょうか?

①ピンク鬼 ②紫鬼
③黒鬼 ④オレンジ鬼

ほしがり鬼 おこりんぼ鬼 わがまま鬼
なまけ鬼 人のせい鬼

「心の鬼」は強い気持ちで、鬼たいじしよう!

3学期もあと、30日!
6年生は26日!

おちついたきもちで、
クラスの仲間と最後まで
楽しく過ごそう!

誰かを傷つけていませんか？ インターネット上での誹謗中傷

➤ 相手が誰でも誹謗中傷はダメ！

インターネット上での、有名人に対する誹謗中傷（悪口や根拠のない嘘等を書いて、他人を傷つけたりする行為）が大きな問題になっています。SNSやコメント欄では「相手が有名人だから何を言ってもいい」と考える人もいますが、実際にひどい言葉を投稿して、それが罪に問われたケースもあります。



➤ 軽い気持ちで悪口を書いただけでも…

インターネット上の誹謗中傷は次のような罪に問われたり、慰謝料を請求される可能性があります。

侮辱罪

侮辱罪は、相手を悪く言うことに関わる罪です。たとえば、SNSで「〇〇はバカだ」とか「〇〇は価値がない」と投稿することは、相手を傷つける言葉として侮辱罪になることがあります。また、「〇〇は〇〇みたいな人」といった抽象的な暴言も侮辱罪になることがあります。

名誉棄損罪

名誉棄損罪は、周りからの評判を悪くするようなことを相手がしていると言ったり広めたりすることに関わる罪です。たとえば、「〇〇は泥棒だ」とか「〇〇は嘘をついている」といったことを言うことがこれにあたります。相手が本当にしていることでも、相手の評判を傷つけるようなことを投稿すると、名誉棄損罪になることがあります。

慰謝料

誹謗中傷による精神的苦痛に対し、金銭の支払いを請求される場合があります。

インターネットでは何気なく書いた言葉でも、誰かを深く傷つけることがあります。冗談や感想のつもりで書いた内容が、相手にとってはとても辛いものになるかもしれません。画面の向こうにいる相手の気持ちは見えないため、つい強い言葉をつかってしまい、相手を嫌な気持ちにさせてしまうこともあります。画面の向こうにいる人も、自分と同じ感情をもった人間であることを忘れないようにしましょう。また、誹謗中傷のトラブルに巻き込まれたときはすぐに家族や先生に相談するようにしてください。

©本資料は北海道教育委員会の委託を受けてポルトゥウィン株式会社が令和7年2月に作成したものです。

インターネット上での 誹謗中傷とそのリスク

インターネット上での誹謗中傷は、子どもが軽い気持ちで投稿した内容でも、大きな問題へと発展する可能性があります。SNSや動画サイトのコメント、口コミサイトなど、簡単に投稿できる場が増えている今こそ、誹謗中傷のリスクについて改めて考えてみましょう。

事実なら中傷して問題なし？

インターネット上での誹謗中傷が原因で、訴訟や重大なトラブルに発展する事例が増えています。子どもが投稿した内容が、知らないうちに他者を傷つけたり、法的問題を引き起こすこともあります。特に、芸能人やスポーツ選手などに向けた悪質なコメントが誹謗中傷と見なされ、法的措置を取られるケースも増加しています。「事実だから誹謗中傷ではない」や「悪口じゃなくて個人の意見だからOK」といった誤った認識から、軽い気持ちで投稿した内容が大きな問題を引き起こすことがあるのです。

誹謗中傷の法的リスク

インターネット上での誹謗中傷は名誉毀損罪や侮辱罪に問われるほか、民事上の責任として慰謝料を請求される可能性があります。例えば、事実に基づいた意見や批評であっても、相手が受ける精神的苦痛や社会的損害が大きい場合、名誉毀損罪として訴えられることがあります。また、「バカ」や「アホ」などの直接的な侮辱は侮辱罪として、刑事罰を受けることがあります。このような刑事罰以外に被害者から慰謝料を請求される場合もあります。



誹謗中傷を意図していなくても、何気なくSNSやコメント欄に書き込んだ内容が相手を傷つけることがあるため、発言には十分な注意が必要です。軽い気持ちからの発言でも、大きなリスクを伴うことから、オンラインでの言動でも発言内容には慎重かつ責任をもつことが求められます。

家庭での指導

インターネット上での誹謗中傷は、有名人だけでなく、身近な友達や一般の人にも同じように注意が必要です。子どもがインターネットを使い始める際にはインターネット上でも自身が発する言葉には責任が伴うことを教え、誹謗中傷が引き起こす法的リスクを理解させることが大切です。さらに、画面の向こう側にいる相手も生身の人間であり、同じように感情や痛みを感じることを伝え、何かを投稿する前に一度相手の立場になって考えることができるよう、子どもと一緒に考えてみてください。



©本資料は北海道教育委員会とポルトゥウィン株式会社が令和7年2月に作成したものです。子どもたちのインターネット利用に関わる相談等がありましたら、下記のURLまでご相談ください。
北海道教育委員会ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト

<https://webreport.public.ptw.jp/hokkaido/helpsite/>